

株式会社LIXIL <http://www.lixil.co.jp/>

グローバル経営を支える次世代ITインフラを 日立のプライベートクラウドサービスで構築

課題

基幹システム刷新プロジェクトに先行し、全社共通のインフラを迅速かつ低コストに構築することとBCP※対策が課題となっていた

※ Business Continuity Plan

解決

LIXILの東京データセンターに日立資産のクラウド環境を構築。リソースプールによる従量課金型サービスを活用したプライベートクラウドを実現

効果

インフラコストの最適化と業務変動に追従するスケールビリティを確保。さらに日立のデータセンター間とのディザスタリカバリ環境を構築中

株式会社LIXIL（以下、LIXIL）は、2011年4月1日に株式会社住生活グループの主要5社であるシステム株式会社、株式会社INAX、新日軽株式会社、サンウエーブ工業株式会社、東洋エクステリア株式会社が統合して誕生した、住生活産業ソリューションをグローバルに提供する企業です。

そのIT戦略を担う情報システム本部では、経営に寄与するコスト削減と、事業の変化・成長に対応した柔軟性のあるシステムデザインをテーマに、さまざまなチャレンジを続けています。

プライベートクラウドの構築実績を評価

「グループ5社が統合した2011年、われわれがL-Oneと呼んでいる基幹システム刷新プロジェクトに先駆け、まずそのためのITインフラをどう構築するかが重要なテーマとなりました。当時は基幹系アプリケーションの要件定義も始まっていない段階でしたので、事業環境の変化に柔軟に対応でき、コストも変動費化できるクラウドが最適だろうと判断しました」と語るのは情報システム本部 情報技術統括部 統括部長の平工 秀夫氏です。

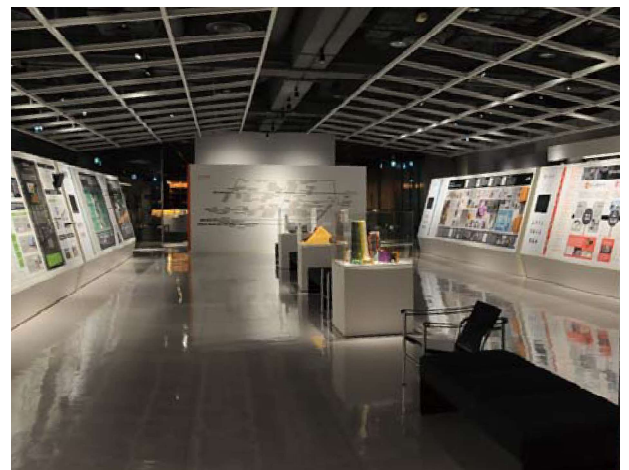
LIXILが提示した提案依頼書では、旧個社では統一感のなかった「サービスレベルの標準化」、柔軟なIT投資を実現する「従量課金型によるITコストの最適化」、東日本大震災をふまえた「BCP対応」という3つの要件が挙げられました。それに呼応した10社の中から最終的にパートナーに選ばれたのが日立です。

「重要度の高い業務に使うインフラでは、何よりもストレージの信頼性と可用性が鍵を握ります。この部分でまず優位だったのが日立さんでした。またBCP対策としてのディザスタリカバリについても、対象となる日立の西日本にあるデータセンター（以下、DC）が非常に優秀であること、さらにわれわれが求めるITリソースの最適化に向けたプライベートクラウドの理想像を、すでに大手製造業の事例で実証済みであったこともクラウド化に踏み切る大きな決め手になりました」と、Information Excellence部 部長の菖蒲 真希氏は話します。

リソースプールでの従量課金型サービス

日立は、LIXIL東京DCに設置されていた約1,600台のサーバ（仮想環境含む）を業務視点から詳細にアセスメントした上で、情報システム本部とともにサービスレベルは「SS→超S」に「品質保証制度→サービスアグリーメント」の標準化と運用・管理の効率化設計を実施。移行性とネットワーク接続性の高さを勘案し、LIXIL東京DC内に日立がクラウド環境を持ち込む、リソースプールでの従量課金型プライベートクラウドサービスを提供しました。

「既存の1,600台のサーバを80台の物理サーバに集約するという日立さん



LIXIL資料館の様子



株式会社LIXIL

本店 東京都江東区大島2-1-1
 設立 2001年10月1日
 資本金 34,600百万円
 従業員数 14,187人(2014年3月31日現在)
 事業内容 建材・設備機器の製造・販売および
 その関連サービス業



の提案には当初「本当にそれが可能な
 のか」と驚きました。しかし技術的な部
 分を詰めていったところ、これまでの実
 績から安定性でも可用性でも問題ない
 ことを確認できたため、お任せするこ
 とにしました。またハードウェアリソースの
 サービス化は当然として、ミドルウェアや
 仮想化ソフト、運用に関する作業項目も
 すべてメニュー化していただけたこと
 で、初期投資を大幅に抑えることができ
 たのも大きなメリットでした」と技術開発
 部 インフラ刷新企画G グループリー
 ダーの佐山 昌之氏は語ります。

続けて同じくインフラ刷新企画G 主
 査の土沢 勉氏も、「これまで受発注や
 生産関係の最重要サーバ(超S)につ
 いては、稼働率の担保や性能面での不
 安から、なかなか仮想化に踏み出せま
 せんでした。しかし今回、日立さんの
 サーバやストレージの信頼性、運用面
 の安心感からトータルにクラウド化を
 実現できたこと、またインフラを4グ
 レードに最適化し、徹底的にコストを
 意識した運用ができるようになった点
 も評価しています」と語ります。

パブリッククラウドとの 連携も視野に

プライベートクラウドの導入により、
 ストレージ増強の場合は申請から3日、
 サーバの新規追加も10日以内で行え
 るようになり、今までにないスピード
 感と拡張性



株式会社LIXIL
 情報システム本部
 情報技術統括部
 統括部長
 ひらく
 平工 秀夫 氏

株式会社LIXIL
 情報システム本部
 情報技術統括部
 技術開発部
 インフラ刷新企画G
 主査
 土沢 勉 氏

株式会社LIXIL
 情報システム本部
 情報技術統括部
 技術開発部
 インフラ刷新企画G
 グループリーダー
 佐山 昌之 氏

株式会社LIXIL
 情報システム本部
 情報技術統括部
 Information Excellence部
 部長
 菖蒲 真希 氏

の高さも評価されています。佐山氏は
 「月次報告ではサーバやインフラ全
 体の稼働状況といったSLAをきちん
 と報告していただけており、契約ど
 おりの高い水準を確保していただい
 ています。徹底的な仮想化集約によ
 ってラック数も40%削減できました
 」と喜びます。

今後は愛知県の知多センターにあ
 るサーバ群のクラウド統合に加え、
 新基幹システムの本番稼働にとも
 なうLIXIL東京DCと日立DC間
 のデザスタリカバリが開始される予
 定ですが、これらと並行して取り組
 まれているのが、パブリッククラウド
 との連携です。

「基幹系ほどのサービスレベルを
 必要としない情報系システムでは、
 Microsoft® Azure™ やSalesforce™
 などのパブリッククラウドを活用
 する方針を固めています。ハイブリ
 ッドクラウドが

本格化していく中で課題となってく
 るのが、それぞれのクラウドごとに
 異なる監視項目や運用方式です。そ
 こで注目しているのが、日立さん
 が提供を開始されたフェデレーテ
 ッドクラウドです。効率のよいクラ
 ウド運用管理の実現に向け、導入
 検討を始めようとしている段階です
 」と菖蒲氏は語ります。

最後に平工氏は「当社がITイン
 フラをより低コストかつ高効率に運
 用していくには、アプリケーション
 も含めたプロビジョニングを担う
 日立さんの手腕にかかっています。
 これからも継続的なサービスレベ
 ルの向上に期待しています」とエ
 ールを送ります。その期待に答え
 るため、日立は今後も「Hitachi
 Cloud」の強化とソリューション
 ラインアップの拡充により、LIXIL
 のグローバルなビジネス展開を
 力強くサポートしていきます。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 エンタープライズソリューション営業統括本部
<http://www.hitachi.co.jp/mononare/>

■ 情報提供サイト
<http://www.hitachi.co.jp/cloud/>